

事例5 劇を題材とした国語科授業の実践（小学校特殊学級）

1. 学級概要

(1) 児童数

本校全児童数 303名
 養護学級児童数 9名
 内 校区外通学 7名
 校区内通学 2名

	2年生		3年生		5年生		6年生		計
1組	—	—	男 1	女 1	—	—	男 1	女 1	4
2組	男 3	女 1	—	—	—	女 1	—	—	5

(2) 指導体制

- ①養護学級は2学級（若竹1組，若竹2組）設置されており，担任2名が指導をしている。
- ②日常生活の指導，生活単元学習，音楽科，図工科，体育科の授業は，2学級合同で活動している。
- ③国語科と算数科の授業は，各学級に分かれ，担任が一斉指導，個別指導を行っている。
- ④児童の実態に応じて，児童の学年の通常学級の音楽科，体育科の授業や給食，行事等で，交流を行っている。

(3) 週時程表（若竹2組）

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導 ・ 朝の会				
2	生単	国語	算数	国語	算数
3	図画工作	体育	生活単元学習	体育	国語(図書)
4	図画工作	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	学級活動
5	国語	音楽		音楽	道徳
6	委員会	自立活動		自立活動	クラブ活動

(4) 国語科年間指導計画（若竹2組）

	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
国 語	◎詩の朗読・暗唱・視写				◎劇遊び				◎カルタづくり		
	◎言葉あそび				◎年賀状				◎思い出 アルバムづくり		
	◎日記										
	◎漢字カルタ				◎漢字の練習						
	◎身近な言葉あつめ										

2. 実践の経過

(1) 実践の概要

昨年度まで、国語科及び算数科の授業は2学級合同授業とし、個別学習を中心に行ってきた。しかし、9名の集団の中では、他の児童の活動からの刺激により学習課題に集中して取り組むことが難しい場合もあった。また、プリントを教材とした個別指導が中心になりがちで、学習に意欲的に取り組めない児童もみられた。

そこで、今年度1学期の6月より、国語科と算数科の授業を学級ごとに分かれて実施するようにした。5名程度の小集団で授業を行うことにより、落ち着いて学習に取り組むようになった。

国語科の授業では、劇活動を通して表現する楽しさを味わいながら、読む力を高めることをねらって取り組んだ。取りあげた題材は、「おおきなかぶ」と「プレーメンの音楽隊」。劇活動はほとんどの児童が初めて行う活動であったので、この2つの題材を連続して授業で取り扱い、児童が見通しを持って活動し、学習に自信を持って取り組むことができるようにした。

(2) 児童の実態

本学級（若竹1組、若竹2組）には、2年生4名、3年生2名、5年生1名、6年生2名の計9名が在籍している。

若竹2組の児童5名（2年生3名、5年生1名）は、全員ひらがなを読むことができている。しかし、まだ拾い読みをする児童や文字を追って読むことが難しい児童もいる。図書室での時間は、ほとんどの児童は、図鑑や挿絵の多い絵本を眺めたり読んだりすることが中心であった。

書く活動については、手先のコントロールがうまくできずに苦手意識を持つ児童が2名おり、賞賛や励ましが必要である。

日常生活での言語理解・表出は全員ほぼできている。元気がよく、話し言葉によるやりとりが活発に出来ている。友達の活動を意識しつつ、お互いに刺激しあい、集団での学習態度が身に付き始めた段階である。

また、音楽が流れると自然に歌ったり、友達を誘って踊ったりしている。朝の会の司会に進んで取り組んだり、みんなの前に出て発表したりすることも好きである。

好きな活動は進んで行うが、初めて取り組むような活動は戸惑うことも多い。繰り返し経験した活動には、見通しを持って「またやりたい」と意欲的に取り組むことができている。

(3) 授業づくりの留意点

授業づくりでは、児童が自分の思いを表現することができる活動を取り入れて、児童がすすんで「やりたい」と思える授業を目指している。授業づくりで留意している点は次の5点である。

- ①児童がやる気を持って取り組めるように、学習計画を話し合いながら、児童の意見を取り入れながら進めるようにする。
- ②初めての学習では、児童が不安を感じないように教師がモデルを提示して見せたり、友達同士で協力してみんなで活動できる場面を作ったりする。
- ③「できる」という自信を持って取り組むことができるよう、繰り返して同じ活動を取

り入れたり、以前行った活動を少しアレンジして学習に取り入れたりした学習活動を準備する。

④児童の興味・関心、実態に即した教材教具を工夫する。

⑤友達同士の関係を生かした活動を取り入れた授業を行う。

(4) 指導目標

①物語を読む楽しさやおもしろさを味わうことを通して、物語への関心を高める。

②物語を朗読しながら、内容を理解し、読むことに慣れる。

③友達と劇のセリフの掛け合いを楽しむ。

(5) 指導計画

①7月及び9月の国語科授業

題材：「大きなかぶ」の劇をしよう（総時間数10時間）

第一次 お話をきこう ————— 2時間

第1時 お話を聞こう(1)

第2時 登場人物を知ろう(1)

第二次 お話を読んでみよう ————— 4時間

第1時 お話を読んでみよう(3)

第2時 カセットテープにお話を録音しよう(1)

第三次 せりふと劇の練習をしよう — 3時間

第四次 劇を発表しよう ————— 1時間

②11月及び12月の国語科授業

題材：「ブレーメンの音楽隊」の劇をしよう（総時数16時間）

第一次 お話を聞こう ————— 3時間

第1時 ビデオを見よう(1)

第2時 お話を聞こう(1)

第3時 登場人物を知ろう(1)

第二次 お話を読んでみよう ————— 4時間

第1時 お話を読んでみよう(3)

第2時 カセットテープにお話を録音しよう(1)

第三次 せりふと劇の練習をしよう — 5時間

第1時 登場人物の気持ちを考えて、セリフの練習をしよう(3)

第2時 劇の練習をしよう(2)

第四次 劇を発表しよう ————— 1時間

第五次「ブレーメンの音楽隊」の本を作ろう — 3時間

(6) 7月及び9月の授業展開と児童の様子

①題材「おおきなかぶ」について

「おおきなかぶ」は、本学級の児童にとっても、話の展開がわかりやすい内容になっている。登場人物が次々と登場し、繰り返しのある文が続いていく。繰り返し続く文は、リズムに乗って読みやすく、覚えやすい。また、自分の役を決めて取り組むことで、友達の役をモデルにしたり比較したりしながら学習することができる。物語の朗読から、劇活動への発展は、自分を表現することが好きな児童たちにとって、興味・関心のある活動であると同時に、読むこと、聞くこと、話すことの活発な活動ができ

ると考えた。

②指導に当たって

導入で絵本の読み聞かせを行い、楽しい時間を共有したい。絵本は、すべてを映像で伝えきるわけではないので、イメージを豊かにふくらますことができる。児童のイメージがふくらむように読み聞かせを工夫したい。台詞や動作がある場面は演技してモデルを見せ、物語のイメージを深め、劇の活動へつなげていきたい。子どもたちが「劇おもしろそうだな」と興味を持ち、「この役をしてみたい」という思いを大切にしたい。

物語の登場人物やあらすじの理解を深めるため読みきかせを続け、マイクを使って朗読の指導を行う。マイクを使うことで、「読もう」とする意欲は高まると考える。読む指導を行いながら、それをカセットテープに録音する。自分の朗読を再生することで、「うまく読むことができた」という実感を自分で味わい、自信をもつことができるようにしたい。

録音した物語の部分を聞きながら、台詞や動きの練習を行う。登場人物になりきれるように衣装を工夫したい。小道具一つで活動意欲は高まると考える。そして友達と一緒に活動する楽しさを味わいながら、「自分で表現したい」という気持ちが高まるように促し、評価していきたい。

練習した劇を学芸会やお楽しみ会で発表することを計画して、みんなで目標を目指して取り組めるようにしたい。発表することでたくさんの人から児童への評価が得られ、児童自身が「できた、がんばった」という達成感や自尊心を味わうことができるようにする。また、活動をビデオで振り返りながら、子どもたち同士で評価しあい、「うまくできた、またしたい」という次の活動への意欲を高めるようにしたい。

③授業の展開の実際

学習活動	・指導上の留意事項と教師の支援					●個人別活動	準備物
	A児(2年生・男子)	B児(2年生・男子)	C児(2年生・男子)	D児(2年生・女子)	E児(5年生・女子)		
・ウォーミングアップの先生ごっこ(カードを読む)をする。	・全員が授業にスムーズに入ることができるようにカードを提示し読ませる。 ・児童の読みの実態に応じたカードを準備して、読めるように配慮する。					●授業に気持ちよく読む。	・カード
	●難しい文字は教師の励ましを受け、手本を借りながら	●手本を見ながら自分で書き写す。	●手本を見ながら自分で書き写す。	●手本を見て書き写す。	●手本を見て書き写す。		
・プリントに劇のセリフや言葉を書く練習を行う。	・児童の実態に応じた分量のプリントを用意し、前時までに練習した部分の書き取りをさせる。 ・書くことが苦手な児童は、できるだけ自分で書けるようにたどり書きにしたり、教師と一緒に書いたりできるように配慮する。					●難しい文字は教師と一緒に書く。	・プリント
	●難しい文字は教師の励ましを受け、手本を借りながら	●手本を見ながら自分で書き写す。	●手本を見ながら自分で書き写す。	●手本を見て書き写す。	●手本を見て書き写す。		

	書き写す。 ●指で文字を おいながら文 を読む。	●教師と一緒に に文字をおい ながら文を読 む。	トに取り組む。 ●指で文字を おいながら文 を読む。
・「おおきなかぶ」のお話を読む。	・自分のしたい役の希望をとって決める。 ・大きな声ではっきりと読むことを伝える。 ・一人ずつ文を追ってゆっくり読むことができるように支援する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> おおきなこえでよんでみよう </div> ●自分で文を 目で追って大 きな声で読む。		
・本時の活動を振り返る。	●教師が指で たどった文を 目で追いな がらはっきり とした声で 読む。		

・お面
・かぶ
・模造紙
に書いた
お話

④児童の様子

ア 授業前から、「おおきなかぶの劇の勉強がしたい！」

「私は〇役がしたい！」と意欲を持って授業にとりかかることができた。

イ 劇活動をする前に、「おおきなかぶ」のプリントを書いたり、読んだりする学習を行うことで、登場人物やセリフ、話の流れを自分で思い出すことができた。

また、早く書き終えた児童が、まだ書き終えてない友達に書き方を教えたり、様子を見たりする場面が見られ、みんなで一緒に学習に取り組む雰囲気が生まれた。

しかし、書く活動が苦手な児童にとっては、劇の前に書く活動を入れることで「おおきなかぶ」の劇がしたいという意欲が低下した。

ウ 黒板に掲示した文は、全員とも2回目にしてはうまく読むことができた。拾い読みやまだたどたどしい読み方をする児童もいたが、よく文を見て読もうと意識して取り組むことができた。プリントで個別に読む練習した成果もあったが、友達の読む様子を聞きながらすすめたことが「自分も読もう」というやる気につながったと

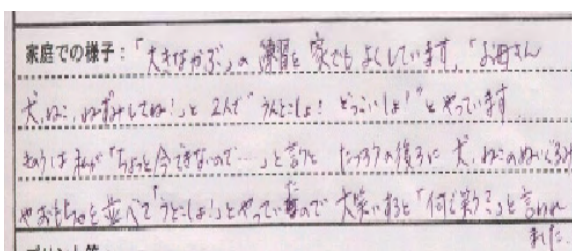


台詞を読みながら練習

思う。

エ 児童は初めての劇活動で、学習に期待感を持って取り組むことができた授業だった。自分がしたい役を希望により決めることでやる気を持って取り組むことができた。

また、「明日は〇役がしたい」と自ら希望するなど、役を交代することで、劇活動がマンネリ化せず楽しんで取り組むことができた。家庭でも自分で文を思い出して練習しているという話を聞くことができた。



家庭からの連絡帳の記述



学芸会での劇の発表

(7) 授業づくりの検討事項および留意点

先行経験した劇活動をもとに、児童が見通しを持って学習に取り組み、みんなで学習・活動する楽しさを味わうことができるように次の点を検討し、留意点として整理した。

- ①「おおきなかぶ」では初めての劇活動で教師が学習計画を立てた。今回は、児童は劇の学習を体験しているので、それを想起させながら、どんな学習を行っていくかを児童と一緒に話し合い、学習計画表を作る。また、2学期最後にあるお楽しみ会で劇を披露してみれば、と提案し、劇の学習のめあてを児童と一緒に決めて取り組みたい。
- ②教科学習は教師主体になりがちだが、児童が先行経験した学習を元に、学習計画とめあてを児童たちと一緒に話し合っ決めて授業に見通しを持ち、主体的に取り組むことができるようにしたい。
- ③「おおきなかぶ」では友達と声をそろえて「うんとこしょ」と言ったり、友達とつながってかぶを引っ張ったりして、友達と一緒に楽しく活動できる場面があった。「ブレーメンの音楽隊」でも同じようにセリフのかけあいやみんなで力を合わせて泥棒をやっつける場面がある。友達と一緒に活動することが好きな児童たちなので、児童同士の友達関係を生かし楽しい活動ができる場面を取り入れて、「おもしろそう、やっ

てみたい」という思いを大切に学習を進めたい。

④書くことが苦手な児童が2名いる。書く活動を入れると授業への活動意欲がさがる。劇の学習中はプリント等ではできるだけ個別学習の時間に行い、授業は全体活動を中心に行う。書く活動が必要な場合は、集中できる分量にするように配慮する。

⑤物語の朗読では、カセットテープに録音することで、自分の朗読を聞きながら、自ら「うまく読めた、できた」ことを確認することができた。

さらに、ビデオテープに録画して自分の演技を見て振り返り、評価を行い、自らの表現に気づかせたい。ビデオテープでの評価は次の活動意欲にもつながると考える。

⑥「おおきなかぶ」のセリフは、「おばちゃん!」「かぶを抜くのを手伝って」など、棒読みしたり、大声で言ったりして、登場人物の気持ちを考えてセリフを言うまでに至る児童はいなかった。

(8) 改善した授業展開と児童の様子ー11月及び12月の授業展開と児童の様子

「ブレーメンの音楽隊」では、登場人物が泣いているわけを話す場面がある。セリフは以前に比べて長く、演技が必要になる。前単元と同じように元気にセリフを言うだけではなく、登場人物の置かれた状況や気持ちを読みとってセリフを言えるようにしたい。気持ちを考えることは児童にとって難しいかもしれないが、単に楽しく劇をするだけでなく、さらに登場人物の気持ちになって演技することの楽しさを味わわせたい。そのためにも、気持ちを考える手だてとして次のことを工夫したい。

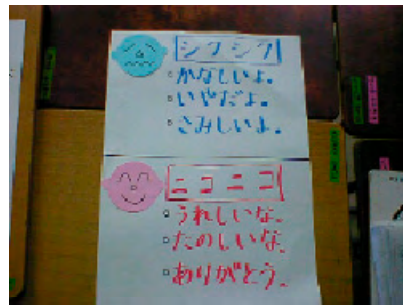
ア ふきだしを活用する。

イ セリフの内容を児童が経験したことのあ
る内容に変える。

ウ 挿絵から判断できるように挿絵の表情を
強調する。

エ 気持ちを絵カードから選択できるように
する。

オ ことばを選択できるようにする。



気持ちカード

①本時の目標

登場人物の気持ちを考えて、気持ちを込めてセリフを言うことができる。

学習活動	・指導上の留意事項と教師の支援					●個人別活動	準備物
	A児(2年生・男子)	B児(2年生・男子)	C児(2年生・男子)	D児(2年生・女子)	E児(5年生・女子)		
・ウォーミングアップの先生ごっこ(カードを読もう)をする。	・全員が授業にスムーズに入ることができるようにカードを提示する。 ・児童の読みの実態に応じて、読めるように配慮する。 ●授業に気持ちよく読む。●文の意味を深く考え、読み進め、読み進め、読み進め。●授業に気持ちよく読む。●あわてず、文字をよく見、文字をよく見、文字をよく見。●読み進め、読み進め、読み進め。●読み進め、読み進め、読み進め。						・カード
・前時の活動を振り返る。	・前時はロバが主人からいじめられ、家を逃げ出したときの気持ちをみんなで考えたことを想起させる。 ・自分の経験から考えたり、挿絵のロバが悲しそうな表情をしていることに着目して考えたりしたことを想起させる。 ●ロバ役として、ロバ役として、ロバ役として。						

	<p>て悲しそうにセリフを言う。 ●ロバ役の悲しい演技を見ながら、前時の活動を思い出す。</p>									
<p>・本時の活動を知る。</p>	<p>・本時は次の場面、自分の役が登場人物の気持ちをそれぞれ考えることを知らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>きもち ☺☺ をかんがえてセリフをいおう</p> </div>									
<p>・登場人物の気持ちを考える。</p>	<p>・セリフから登場人物の気持ちを考えたり、挿絵を見て登場人物たちがニコニコ、シクシクとした表情をしていることに注目させる。</p> <p>・一人ずつ指名してセリフを言いながら考えさせる。</p> <p>・友達の活動や考えを参考にできるように注目させる。</p> <p>・セリフや挿絵から登場人物の気持ちを考えたり、言葉に表したりすることが難しい児童には、まず ☺☺ の絵カードを選ばせて考えさせる。</p> <p>・選んだ絵カードからも気持ちを言葉で表すことが難しい児童には、気持ちを書いた表の中から言葉を選ばせる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●登場人物のセリフから、気持ちを考え、言葉で表す。</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●絵カードを選んで気持ちを考える。気持ちの表の中から選ぶ。</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●登場人物の気持ちを自分で置き換えて考えたり、挿絵に注目して気持ちを言葉で表す。</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●絵カードを選んで気持ちを考える。気持ちの表の中から選ぶ。</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●登場人物のセリフから、気持ちを考え、言葉で表す。</td> </tr> </table>	●登場人物のセリフから、気持ちを考え、言葉で表す。	●絵カードを選んで気持ちを考える。気持ちの表の中から選ぶ。	●登場人物の気持ちを自分で置き換えて考えたり、挿絵に注目して気持ちを言葉で表す。	●絵カードを選んで気持ちを考える。気持ちの表の中から選ぶ。	●登場人物のセリフから、気持ちを考え、言葉で表す。				
●登場人物のセリフから、気持ちを考え、言葉で表す。	●絵カードを選んで気持ちを考える。気持ちの表の中から選ぶ。	●登場人物の気持ちを自分で置き換えて考えたり、挿絵に注目して気持ちを言葉で表す。	●絵カードを選んで気持ちを考える。気持ちの表の中から選ぶ。	●登場人物のセリフから、気持ちを考え、言葉で表す。						
<p>・考えた自分の役の気持ちやセリフを吹き出しに書く。</p> <p>・自分で考えた気持ちを込めてセリフを言う練習を行う。</p>	<p>・ふきだしに気持ちをかいて、それを写させる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 2px;">●うまく書けないときは、教師の補助を受けてセリフを写す。</td> <td style="width: 33%; padding: 2px;">●手本を見ながら、自分でセリフを写す。</td> <td style="width: 33%; padding: 2px;">●教師の補助をうけてセリフを写す。</td> </tr> </table> <p>・自分で考えた気持ちを込めてセリフが言えるように演技指導を行う。</p> <p>・演技しているその場で、うまくできているところをほめる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●表情を工夫してセリフを言う。</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●悲しい気持ちでセリフを言う。</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●表情を工夫してセリフを言う。</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●悲しい気持ちでセリフを言う。</td> <td style="width: 20%; padding: 2px;">●表情を工夫してセリフを言う。</td> </tr> </table>	●うまく書けないときは、教師の補助を受けてセリフを写す。	●手本を見ながら、自分でセリフを写す。	●教師の補助をうけてセリフを写す。	●表情を工夫してセリフを言う。	●悲しい気持ちでセリフを言う。	●表情を工夫してセリフを言う。	●悲しい気持ちでセリフを言う。	●表情を工夫してセリフを言う。	<p>・ふきだし</p> <p>・ペン</p> <p>・ビデオ</p> <p>・カセットテープ</p>
●うまく書けないときは、教師の補助を受けてセリフを写す。	●手本を見ながら、自分でセリフを写す。	●教師の補助をうけてセリフを写す。								
●表情を工夫してセリフを言う。	●悲しい気持ちでセリフを言う。	●表情を工夫してセリフを言う。	●悲しい気持ちでセリフを言う。	●表情を工夫してセリフを言う。						
<p>・ビデオを見ながら本時の活動を振り返る。</p> <p>・次時の活動を知る。</p>	<p>・自分のセリフの様子をビデオで見せながら、評価を行う。</p> <p>・気持ちを込めて言えた児童を具体的にほめる。</p> <p>・がんばるともっとよくなる所も励ます。</p> <p>・友達同士で評価させる。</p> <p>・最後の場面、泥棒を追い出した時の気持ちとセリフを考えることを知らせる。</p> <p>・劇を披露するお楽しみ会までの日にちを伝える。</p>									

②児童の様子

ア 「気持ちを考えて」というめあては、前時の授業で同じような学習はしたものの、活動の見通しを持ってない児童がいた。活動の見通しを持ってた児童を初めに指名して学習を進めることで、見通しを持ってなかった児童（C児）がその友達の様子を見ながら、活動を理解して取り組むことができた。

「気持ちを考える」活動は道徳の時間に指人形を使って学習したことがあり、それとつなげて考えることができた児童（A、E児）がいた。

イ 初めて行う学習への見通しが持ちにくいB、D児にとって、JLの絵カードを選ぶ活動は理解できたよ

うだ。挿絵から気持ちを読みとって、JLのカードを選ぶことができた。しかし、それを気持ちの表の中から選ぶことは難しかった。

ウ 登場人物の気持ちを読みとることは、発達段階的に難しい児童もいた。また、国語の授業では初めての課題で見通しの持ちにくい内容でもあった。力不足で児童たちの中から十分にことばを引き出すことができなかった。しかし、ことばに置き換えることは難しかったが、挿絵から気持ちを読みとったり、絵カードを選択したりすることを通して、登場人物の気持ち（悲しい、うれしい等）を自分なりにセリフに生かして表現できた。

エ ビデオで自分のセリフの様子を振り返りながら、泣いたり笑ったりして気持ちを込めてセリフを言うことができたことを誉めた。友達にも上手にできているところを評価させた。ビデオで活動を振り返ることで、その場ではうまく表現できない児童が、次時の活動で気持ちを込めて言おうと意識することができた。

オ 学習計画表で今日の学習内容を自分たちで確認することができた。次は、「セリフの練習をする」「泥棒が出てくる場面の練習をする」など、主体的に授業にのぞもうとする姿が見られた。

カ お楽しみ会で劇発表後、自分たちが演技している写真を使った絵本を作成した。自分の写真の様子を見ながら、セリフや文を書き加えられるようになっている。この学習では、普段書くことに苦手意識のある児童がすすんで「本を作っておかあさんに見せたい」と黙々と文を書く様子が見られた。できあがったオリジナル絵本は、家庭で読んで楽しんでいるようだ。



3. 成果と課題

(1) 児童の変容

①二つの劇の単元活動を通して、児童が国語の授業に主体的に取りかけられるようになった。楽しく自己表現できる劇活動は、「友達と一緒に活動したい」「楽しく劇をしたい」という児童の思いを育み、それを行動に移して取り組もうとする意欲を生むことができた。「2時間目は劇だよ!」「明日もブレーメンする。」と期待感を持って授業に向かう姿が見られた。

②二つの物語教材を学習することを通して、普段絵本を眺めることはあっても、文字を

読もうとしない児童が、休憩時間に二つの絵本を自分で声に出して読んだり、友達と読みあったりする姿が見られた。読み慣れた絵本に飽きることなく、自分で本が読めることが楽しかったようだ。まだ、進んで新しく絵本を選んで内容を追って読む児童は見られないが、物語を自分で読む楽しさを味わうことができたようだ。

③物語を朗読したり、文を読んだりすることに慣れてきた。カセットテープに自分の声を聞くことが新鮮であり、間違えてももう一度録音してもらって読んでみようがんばって取り組むことができた。スムーズに読むことは難しいが、はっきりとした声で読むことができるようになってきた。

(2) 授業づくりの成果

①「みんなと一緒に楽しく活動したい」という児童の思いに寄り添い、個別学習から全体学習を中心とした授業づくりをすることで、友達同士の間人間関係を生かして、お互いがいい刺激となり、意欲的に学習することができた。

友達と一緒に活動することは、

ア 友達と楽しく活動できるだけでなく

イ 友達の活動を見てまねることができ、

ウ 友達の活動と自分を比較することができ、

エ 友達を意識して取り組もうとすることができる。

劇活動は、朗読の練習やセリフの掛け合いなど友達と一緒に活動できる場面を多く設定できた。さらに、友達と一緒に楽しく活動し、お互いの活動を見合うことを通して、「僕も読んでみたい」「僕はこうやってする」など自分の思いを行動に移しながら、学習意欲が高まった。

②児童と一緒に学習計画を話し合うことで、「今日は何をする」と見通しを持って取り組もうとする姿が見られた。家庭で「お楽しみ会で劇をするんだよ」「今日は劇の練習をしたよ」と話をする児童もいた。

③ビデオやカセットテープを使って、うまくできたところやうまくできなかったところなど自分の活動を振り返ったり、友達から認められたりすることで、自ら気を付けたり、次はがんばろうと意識することができた。教師から誉められるだけでなく、友達に認められることはとても励みになったようだ。

④気持ちを考える場面は、国語の授業では児童にとって経験のない活動であった。初めての学習場面は、見通しがもてずに戸惑う児童も見られ、発達段階的に難しい児童もいたが、児それぞれの実態にあった学習の手だてを工夫することで、児童の持っている力で考えることができたと思う。

(3) 今後の課題

①劇活動は、子どもの言葉を広げるにはとても有効である。しかし、劇の言葉だけを取り上げて活動するだけでは、児童にとっては劇のイメージが膨らまず、つまらないものに終わってしまう。

児童がいきいきと役が演じられるように、劇の中での効果音や音楽、舞台のなどを工夫することが必要である。また、役のイメージやセリフに動きを加えることでより演じやすくなる。動きと言葉がつながることで、その言葉が身に付き、劇の世界が広がっていくと思う。

普段の学校生活の中にも、劇遊びを活用し、読み書きの指導だけではない、言葉の世界を広げられる指導をしていきたい。

②友達との関わりを生かし、児童相互がよい刺激となり、学習意欲が高まった。国語や算数の教科学習は、児童の実態に差があり、それぞれの目標達成のために小集団や個別での学習も取り入れながら授業を行った。個別活動で力が伸びる児童もいれば、活動意欲をなくしてしまう児童もいる。全体活動と個別活動をバランスよく授業に取り入れながら、より効果的に目標達成が目指せるような授業展開、授業づくりをめざしたい。

③児童が得意なことや自信のある活動（先行経験のある活動、成功感を体験した活動）を授業の中に生かし、学習活動そのものが「おもしろそう、やってみたい」と思える教材を設定すれば、学習意欲は高まり、新しい課題・難しい課題も乗り越えようとすることができる。

児童の学習実態や課題を理解して、目標を設定するだけでなく、児童の得意なこと、何が好きでどんな遊びをしているのか、など日常生活の様子や児童の思いを知り、それを生かせる授業づくりを実現したい。また、児童の実態に応じた学習の手だてを工夫して、「できる」と自ら学習に満足ができる授業を実現したい。